

令和5年度

新潟市学校園授業改革パイロット事業 実践事例

総合的な学習の時間における探究の過程の質的な向上

総合的な学習の時間における探究の過程の質的な向上

新潟市立五十嵐小学校 校長 諸橋 智
研究主任 有坂 梢雪

1 研究実践の内容

(1) 各学年における単元の再構築

総合的な学習の時間の活動を「地域活動」から「学校・地域協働の学び」へと捉えなおし、「地域とつながり、地域と学ぶ。そして未来の五十嵐の街づくりに参画する」という視点での活動内容の見直しにより、単元を再構築し、実践した。

(2) 探究の過程の質的向上による授業改善

探究の過程の質的向上を図り、児童のより深い学びへとつなげることを目指した。外部講師を招聘した校内研修や授業研究会の開催を通して、その成果と課題を検証した。

2 実践の成果と課題

(1) 実践

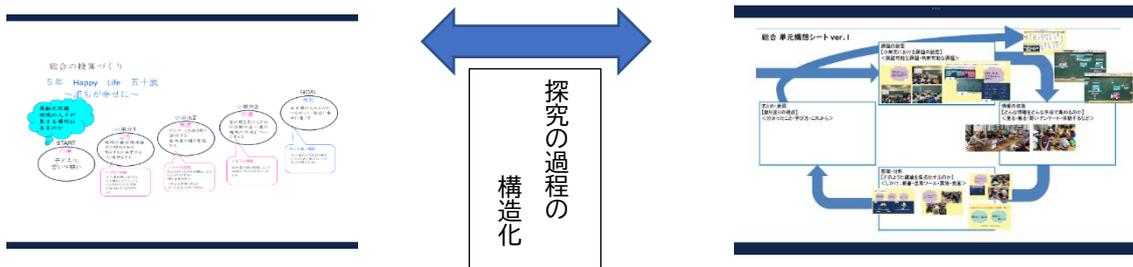
① 単元の再構築

以下の過程で単元の再構築を行い、各学年での総合的な学習の時間の活動を実施した。

ア 指導者を招聘した校内研修（令和5年4月～6月）

講師として、小川雅裕様（新潟小学校教諭）を招聘し、総合授業開きと「単元デザインシート」を活用した単元構想について職員全員で研修を行った。さらに各学年での検討を重ね、シート活用による単元内容の見直しと、探究過程のスパイラルの構造化を図った。

【資料1参照】



イ 学校運営協議会における情報交換（令和5年5月）

「地域と学び、未来の五十嵐のまちづくりに参画する」総合の実践を目指し、地域の「ひと・もの・こと」とつながる学習材について、地域住民と職員が共に検討した。そして、今年度の学習材を次のように定めた。

3年生：砂丘地の大根づくり

4年生：日本海夕日ラインと五十嵐浜

5年生：清心の森、地域の「茶の間」

6年生：五十嵐地域の防災

ウ 3年生以上全学級での総合授業開き

教師による単元の再構築後、児童主体による見通しをもった学習活動をスタートさせるため、「総合で何を学ぶか」ということを児童とともに考える授業開きを全学級で行った。

エ 地域の専門家や行政との連携・地域教育コーディネーターを仲介とした地域連携

地域の「ひと・もの・こと」と連携した活動を、各学年で実践した。

3年生：地域の農家や西区の農協、地域の販売店との連携

4年生：五十嵐浜で活動するマリンスポーツの専門家や、漁業組合、環境保全を目的として活動する西区住民との連携

5年生：社会福祉協議会、地域コミュニティを開催する地域住民、保安林（清心の森）を管理する地域住民との連携

6年生：西区総務課や新潟大学教授（地質学専門）、防災士との連携

オ 「複業先生」事業を活用したゲストティーチャーによる出前授業

経済産業省「探究的な学び支援補助金 2023」を活用した外部講師によるオンライン授業制度を活用した。学びのアウトプットの手段について、専門家によるオンライン授業を実施した。

② 授業研究会

ア 研究会の実際

○プレ研究会【令和5年9月15日 校内研修】

3年生「砂丘地の大根を 伝え隊・広め隊」

授業者 教諭 加藤 寛子
指導者

白井小学校

教頭 岩名 玲子 様

6年生「目指せ！地域の防災リーダー」

授業者 教諭 羽賀 剛志
指導者

有明台小学校

教頭 金 洋輔 様

○授業研究会【令和5年10月25日 対面開催】：外部より13名参加

4年生「魅力がいっぱい 五十嵐浜」

授業者 教諭 平岡 明子
指導者

新潟小学校

教諭 小川 雅裕 様

5年生「Happy Life 五十嵐～誰もが幸せに～」

授業者 教諭 冨沢 句子
指導者

有明台小学校

教頭 金 洋輔 様

(※5年指導案については【資料2】参照)

○特別研修会【令和5年12月26日 ハイブリット開催】：外部より15名参加

講師 國學院大學 教授 田村 学 様

研修テーマ 「探究勉強会 in 五十嵐小学校」



(2) 成果

ア 単元の再構築

- 学校運営協議会での話し合いを通して「地域とつながり、地域と学ぶ。そして未来の五十嵐の街づくりに参画する」総合的な学習の時間の実現に向けてスタートを切ることができた。
- 外部講師による専門的な指導により、探究の過程について学び、単元を構造化して捉えることで、見通しをもち、学びを深める学習活動を展開することができた。また、全職員で取り組むことにより、確かな授業改善につながった。
- 地域人材や専門家と積極的に連携を図ることで、「地域協働学習」実現の第一歩となった。
- 総合学習での取組を、「県教育の日イベント」で発表したり（5年生）、「環境フェスティバル」に参加して発信したり（4年生）する機会を得た。また、児童が考えた大根料理を地域の商店で販売してもらった様子が「新潟日報るーと」に掲載されたり（3年生）、全校児童向けにミニ防災教室を開催し、防災の大切さについて伝える活動も行ったりした（6年生）。このように、児童が自分たちの活動に自信と誇りをもち、学びを深めた姿が見られた。

イ 授業研究会

- 2学級の授業公開後の協議会、全体指導を通して、単元づくりや児童主体の学びの在り方について具体的に学ぶことができた。
- 研究会の参加者アンケート「当校の研究が参考になったか」という項目では、回答者全員がA評価だった。当校職員はもちろん、共に学ぶ場を提供することで、参加者にとっても有意義な研修の場となった。
- 田村教授の特別研修会参加者によるアンケート「当校の研究・実践は参考になったか」「全体協議の内容は参考になったか」という項目では、回答者全員がA評価だった。研修会では参加者の疑問や悩みについて、田村教授を中心に全員参加型のディスカッションを行った。参加者自身が対話的・主体的な学びを体感することで、参加者にとっても満足度の高い研修となった。

(3) 課題

- 今年度の取組を通して、かかわり合う場面での対話の在り方に課題があるという実態が見えた。来年度は、「考えるための技法（文部科学省）」を活用し、対話の活性化を目指す。
- 総合のベースとなる生活科を含めた6年間を通して育てる資質・能力を設定する。田村教授のご指導を受け、育てるべき資質・能力を段階的に示した一覧表を作成した。来年度は、その一覧表を下に実践を行い、資質・能力の育成について検証を進める。

(4) 終わりに

今年度は、本事業の指定を受け、「五十嵐の総合を見直す」という意識をもって学習材や探究の過程について全職員で検討し、学び直した。令和6年度は、生活・総合に教科を絞った校内研修をしたいと、職員の意欲も高まっている。令和5年度の成果と課題を受け、来年度も探究の過程の質的向上を目指して、

1. 単元名 Happy Life 五十嵐 ～誰もが幸せに～

2. 単元の目標

地域の現状を知り、五十嵐の地域に住んでいる高齢者との交流を通して、高齢者の思いやその暮らしを支える仕組みや人々の願いに気づき、地域のために自分ができることを考えて、行動しようとする。

3. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の高齢者と関わるだけでなく、多世代が関わることで地域住民がつながっていくことの大切さに気付いている。 ②地域の人々が関わる場や機会が、今後も続いていくことの大切さに気付いている。 ③資料やインターネットからの情報収集やインタビューなど、情報の収集の仕方を考え、得た情報の整理や分析の仕方を理解している。	①行政の方の話を聞いて地域の現状を知り、高齢者との交流会を実施するための課題を設定し、解決へ向けて見通しをもっている。(課題設定・情報収集) ②交流について、比較したり分類したりして、高齢者に関わりをもつための活動を考えている。(整理・分析) ③地域の人との交流について、自分たちの思いを表現する方法を考え、まとめている。(まとめ・表現)	①課題の解決に向けて、自分が考えるよりよい方法で取り組もうとしている。 ②友達の考えを生かしながら、協働して課題解決しようとしている。 ③地域の一員であることを意識し、地域の課題について積極的に関わろうとしている。

4. 単元と指導の構想

(1) 単元と児童

昨年度児童は、総合的な学習の時間において、地域や五十嵐浜のゴミ問題について環境をテーマに学習を行った。課題に対する思いや願いをもち、活動に対する意欲は高い傾向にある。今年度の総合的な学習の時間の導入で、これまでの総合的な学習の時間について振り返り、児童は総合的な学習の時間とは「地域の人たちが安全に楽しく過ごすために、地域の人と協力して考えて活動していく学習」であると捉えた。さらに、今年度の総合的な学習の時間において、「一人一人の考えを大切にすること」「みんなで協力して、納得するまで話し合うこと」「地域を明るく盛り上げること」「地域の人とのつながりをもつこと」を大切にしたいという思いをもった。この学習を通して、五十嵐の地域の一員として自分たちには何ができるのかを考えたり、この先も取組が持続していくための方法を考えたりする児童の姿を引き出したい。

(2) 指導の構想

現在児童は、五十嵐の地域には高齢者や子育て世代、障がいをもった方など様々な人が暮らしているこ

とを知り、「地域 みんなが（自分も含め）幸せに暮らしたい」という思いをもっている。そこで地域の高齢者の方や茶の間の取組について社会福祉協議会や地域の方から話を聞く機会を設ける。児童は「自分たちにできることは何か」を考えるようになり、高齢者との交流を通して、高齢者の立場や考え方を理解し、共に生きることの大切さを実感すると考える。茶の間（1回目）では、茶の間の代表者や民生委員の方に参加していただき、児童の取組についてアンケートを書いていただく。茶の間（1回目）の様子を振り返ったりアンケートの結果を分析したりすることで、自分たちの取組の改善点に気付かせ、自分も相手も楽しめる茶の間の活動へ繋げていきたい。

拡大茶の間については、高齢者だけでなく地域住民に呼び掛け、多世代の方が参加できる場にする。各活動の目的を明らかにし、地域の誰もが幸せに暮らすために何ができるかを考えて活動していくことで、本単元のねらいに迫ることができると考える。

5. 単元の指導計画(全70時間)

	学習のねらい（○）と主な活動内容（・）	知	思	態
1. 五十嵐の地域のためにできることは何だろう。 (25 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの総合的な学習の時間を振り返り、どんな力を付け、それを使ってどのように学習をしていくのかを考える。 ○社会福祉協議会の方や地域の方から、五十嵐地域の現状や課題について聞き、地域の人がつながるための取組について理解する。 ○地域の茶の間を見学に行き、茶の間に込められた思いや願いを知る。 ○交流会で、自分たちにできる活動は何かを考える。 ○茶の間のパンフレットやインターネットから、茶の間の取組について調べる。 ○調べた活動について分類したり整理したりして、自分たちの活動について考える。 ○茶の間（1回目）を計画し、実施する。 	① ③	① ②	① ①
2. 拡大五十嵐茶の間を実施しよう。 (20 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○茶の間（1回目）のアンケートの結果や振り返りから、プレ茶の間が成功したのかを考える。（本時） ○ゲストティーチャーの方から、相手を楽しませたり相手とつながるための活動の視点を聞いたりして、自分たちの活動の改善点を考える。 ○拡大茶の間を実施する。 		②	② ②
3. 五十嵐の地域 みんながつながるためにできることは何だろう。 (30 時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○2回の茶の間の開催によって、地域のつながりが広がったのかについて振り返り、今後の活動について考える。 ○子育て世代や障がいをもった方の思いや願いを聞き、高齢者だけでなく、子育て世代の方や障がいをもった方などとのつながりを作るために、自分たちにできそうなことを話し合う。 ○ゲストティーチャーの方から、ポスターやリーフレットの効果的な表し方について聞く。 ○これまでの活動を振り返り、これからも地域の一員として自分が続けていけそうなことを考え、伝え合う。 	②	③	③ ③

6. 本時の計画

(1) ねらい

プレ茶の間について参加者アンケートを基に振り返る活動を通して、拡大茶の間に向けて更に改善が必要だということに気付く。

(2) 本時における「深い学び」の姿

プレ茶の間について参加者アンケートを基に振り返る活動を通して、

- ・自分たちの取組は成功だと思っていたが、課題があったことに気付く。(O→A)
- ・自分たちの取組に課題があると思っていたが、違った視点の課題に気付く。(A→A+B)
- ・自分たちの取組の課題について、次回の交流会への改善点に気付く。(A→B)

(3) 展開

学習活動・時間	教師の働きかけと予想される児童の反応	手立て①②③・留意点
<p>1. 茶の間を振り返りから、課題意識をもつ。(10分)</p> <p>2. 茶の間について話し合う。</p>	<p>課題：かかわりがなかった人とつながれる茶の間を開こう。</p> <p>T 1：先週の茶の間について振り返りましょう。 C 1：緊張したけれど、上手くいったと思う。 C 2：練習をしたので、スムーズに交流ができた。 C 3：〇〇さんが楽しんでくれたので成功だったと思う。 C 4：「楽しかったよ」と言ってもらえたので嬉しかった。 T 2：みんなのアンケートの結果を見てみましょう。どんなところが良かったですか。 C 5：みんなが笑顔でした。 C 6：参加者の人と会話ができました。 C 7：知らない人とも仲良くなれたと思います。 T 3：参加者の方からのアンケートの結果を見てみましょう。 C 8：「楽しかった」と思ってくれた人がたくさんいる。嬉しいな。 C 9：仲良くなれたと思ってもらえた。 C 10：「またやってください」と書いてあるね。 C 11：参加者同士はあまり仲良くなれたという感じがしなかったようだ。 C 12：大成功とは言えないから、次は大成功させたい。 T 4：なぜ参加者同士が仲良くなれたと感じた人が少なかったのでしょうか。当日の参加者との様子から、問題点を考えてみましょう。</p>	<p>①ズレや憧れを感じさせる 問題提示 参加者のアンケート結果を提示し、茶の間の課題に気付かせる。</p> <p>○児童と参加者のアンケート結果を帯グラフで表して提示する。</p> <p>○茶の間開催後に撮った参加者の方のインタビュー動画を流し、改善点があることに気付かせる</p> <p>○児童が良かった点と課題を明確にできるよう、P（良かった点）、M（問題点）、I（改善点）に分けて、画用紙に書かせていく。</p> <p>②児童の実態に合わせたかかわり合う場の設定 グループ同士で当日の様子を聞き合い、問題点をグループピングしていく。</p>

<p>(30分)</p>	<p>C13：自分たちと地域の人が仲良くなることは意識していたけれど、参加者同士のことはあまり考えていなかったね。</p> <p>C14：ゲームのこと以外の会話がなかったかな。</p> <p>C15：自己紹介をしなかったね。</p> <p>C16：チーム戦にしたから、それは良かった点だね。</p> <p>C17：ゲームの説明に一生懸命になりすぎて、みんなが仲良くなるような会話ができなかった。</p> <p>C18：ゲームが難しすぎたかな。</p> <p>C19：もっと盛り上がるように会話をすればよかった。</p> <p>T5：次の茶の間に向けて、改善点がいくつかありそうですね。グループ毎に考えてみましょう。</p> <p>C20：自己紹介の時に、名前だけではなくて好きな食べ物も言ったらどうかな。</p> <p>C21：一緒に活動した方が仲良くなれる気がするね。</p> <p>C22：個人戦ではなくて、チームで協力してゲームをするようにしたらいいと思う。</p> <p>C23：ゲームは、やってもらうだけだったから、私たちと高齢者の方が一緒にゲームをしてクリアするようなルールに変更したらどうかな。</p> <p>C24：私たちと参加者のチームでゲームをするのも必要だし、参加者同士でチームを作ることも必要だね。</p> <p>C25：高齢者の方がどんな話題で話したいのかを調べるのはどうかな。</p> <p>C26：ルールを簡単にして、余裕をもって話しながら楽しめるようにしてみよう。</p> <p>C27：次の時には、もっと参加者と関わられるような活動にしたい。</p> <p>T6：次の茶の間に向けて何を大切にしていきますか。</p> <p>C28：みんなが仲良くなれるようにすることです。</p> <p>C29：参加者同士のかかわりのことも考えることです。</p>	<p>○良かった点と問題点を黒板に貼らせ、児童の発言に合わせ、分類していく。</p>
<p>3. 学習の振り返りを する。 (5分)</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>まとめ：参加者も楽しめたり、参加者同士も仲良くなれたりする工夫を入れることが大切。</p> </div> <p>T7：今日の学習の振り返りをしましょう。</p> <p>① 今日の学習で分かったこと</p> <p>② 考えたこと</p> <p>③ 次の総合の学習でしたいこと</p>	<div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>③児童の考えや発言をつなぐ教師のコーディネート</p> <p>分類する</p> <p>各グループから出た問題点を児童の言葉を基に分類していく。</p> </div> <p>○児童が考えた問題点を基に、改善点を考えさせる。</p> <p>○次の茶の間で大切にしたいことを確認し、拡大茶の間への見通しをもつ。</p> <p>■茶の間を成功させるには、参加者のことや参加者同士のつながりを考えて活動していくことが大切だと気付いている。(振り返り)</p>

(4) 評価

A・・・茶の間を成功させるには、参加者や参加者同士のつながりのことを考えて活動していくことが大切だということに気づき、具体的な改善策を考えている。(振り返り)

B・・・茶の間を成功させるには、参加者や参加者同士のつながりのことを考えて活動していくことが大切だということに気付いている。(振り返り)

(5) 板書計画

10/25

1. 3組のみんなと地域の人々が仲良くなれたか。

2. 地域の人同士が仲良くなれたか。

3. 5-3茶の間を楽しめたか。

かかわりがなかった人とつながれる茶の間を開こう。

P

M

I

参加者も楽しめたり、参加者同士も仲良くなれたりする工夫を入れることが大切。